



2015～16 年度  
国際ロータリー会長

K. R. ラビンドラン

# Weekly Report Niigata



## 世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度  
新潟ロータリークラブ会長

竹石 松次

新潟 RC6 月第 2 例会 (2016.6.14) No.3138

### (1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

### (2) 竹石 松次 会長挨拶

伊藤赤水

昭和十六年六月 (1941) 生まれ。

佐渡市相川 (旧・佐渡郡相川町) で赤水窯五代目として誕生、本名窯一 (よういち)。佐渡金銀山の鉾脈近くから産出される赤褐色の粘土を原料とする無名異焼は、江戸時代から継承されている地場産業である。

江戸時代の慶長年間に相川鉾山の発見で様々な産業化が相川に起こった、その中で坑内で使用する明かりとりの器具「かわらけ」を作る人が加賀から移住した。

その一人に伊藤伊兵衛がいた。伊兵衛の子息甚兵衛が羽口 (金を採掘する際の送风管) 造りに従事していた。その後、天保年間、伊藤富三郎 (羽口屋甚兵衛) によって赤水窯が開窯された。

その子伊兵衛が正徳四年 (1714) 家業のかたわら素焼きの日常雑器を制作、陶器づくりを始めたのは、伊兵衛から八代目、そして、九代目の富太郎が「赤水」を名乗った。

「赤水」とは、金鉾から流出する疎水の水が赤く変色しているところから命名された。

父である四代目「赤水」の博は、伊藤が生まれると戦争に行き、五歳の時帰還、その後陶器造りに従事するものの昭和三十六年、四十四歳で亡くなる。

祖父の三代・赤水の伊藤孝太郎との接点は、父の死後、後継者としての修業を行う師匠としての役割を担って貰った事である。

佐渡高等学校を卒業した伊藤は、父が学んだ母校である京都工芸繊維大学に入学、陶芸の勉強を目指したものの、授業はもっぱらガラス、耐火、燃焼といった陶芸とはやや距離を置く内容で、僅かに釉薬の勉強が参考になった。

卒業後は、佐渡に戻り、三代、赤水の祖父の指導の下、ロクロ蹴りに挑戦する毎日となった。作家として、また経営者として、伊藤家を切り盛りする役割を担うことになった。

陶器づくりは、土づくりの通り、佐渡の無名異焼は、酸化鉄を含んだ赤い粘土であるが、粘着力が弱く、手に持つとパラパラと指の間からこぼれる。従って、ほかの土を混ぜて使うが、この時、何を混ぜるか、どのような調合を行

うかが作品に影響する。佐渡の古い作品の中には、赤色ではなく中国で誕生した朱泥色や黒色の作品が伝えられている。

その一つが、金太郎焼である。寛政年代 (1789～1801) から明治初期まで、およそ七十年間続いた窯で、佐渡における本格的な施釉陶器である。大量の陶器と瓦を登り窯で焼いていたが、元祖・黒沢金太郎が金銀鉾石の精錬滓や土灰を使いねずみ色で硬質の陶器を作った作品や記録が残されている。

佐渡の人間国宝・三浦小平二の祖先は、同じように相川で江戸時代から続く陶芸一家で名門窯である。

伊藤が五代目を継いだ昭和五十二年、表面が赤と黒の色の違いを表現する窯変に力を注ぐようになる。

窯変は、窯の中で燃焼する炎のあて具合で、鉄分を含んだ赤い粘土は、赤い色だったり黒く変色することをいう。これは、真正面から炎をあてると、その部分が鉄分と酸素の化合物が赤く出色、酸素分の少ない酸化第一鉄の部分が黒くなる。

焼成の過程で微妙な表面変化を窯を焚きながら調整する、炎の魔術師たる所以である。

今一つの技法は、伊藤が窯変をはじめてから十六年後の昭和四十三年頃から始めた方法で、練り上げである。手法は、色の異なる土を重ね合わせて、押ししたりつぶしたりして、巻き寿司、金太郎飴状の素地を作り、それを切って断面を表に出るようにする。それを皿なら皿になるように並べ形成する。

家紋を作る場合は、あらかじめ焼いておいた皿の上に、切断した『金太郎飴』を重ねに組み、乾燥した段階で皿から外して行き、窯変しないよう電気、ガスを使って焼きあげる。赤、白、黒の三色で表現された作品は、名人芸である。

花紋練り上げの作品は、鉢、香炉、大皿、水指、角壺、茶盃、徳利と全ての分野に及んでいる。

こうした作品の数々は、日本伝統工芸展高松宮記念賞、日本陶芸展最優秀賞、日本陶磁協会賞、新潟日報文化賞、

新潟知事表彰等を受賞している。

また、アメリカワシントン、国立スミソニアン博物館、イギリス、国立ビクトリア・アルバート美術館で展示されたほか、内外の美術館、首都圏のデパート等での作品展が開催されている。

平成十五年、無名異焼の伝承者として国の重要無形文化財保持者・人間国宝に認定された。

新潟県では、佐渡の蠟型鑄金・佐々木象堂（昭和三十五年）、新発田市の日本刀鍛冶・天田昭次（平成九年）、陶芸の青磁で、やはり佐渡相川出身の三浦小平二（平成九年）、東京国立で開窯に次いで四番目の人間国宝である。

佐渡にこだわる伊藤赤水は、今年七十四歳になる。佐渡の無名異焼を牽引して多くの窯元の先頭に立っているが、観光客の減少で先品や製品が苦戦を強いられている。

佐渡金銀山の世界遺産登録を目指す運動も全県的な広がりを見せている。

陶芸や竹工芸、金属加工の産業を盛り上げるために佐渡の文芸復興ならぬ芸術再興を目論んでいるほか、日本の伝統工芸を活性化するための活動に力を注いでいる。

平成八年には、佐渡市下相川の日本海が一望する丘陵地に「伊藤赤水作品館」を建設、歴代・伊藤赤水の作品が展示されているほか

窯変と練り込みの作品が展示されている。

気取らない伊藤赤水の後継者、六代となる子息の英傑も佐渡の工房で作家活動を開始している。

平成二十四年の新潟放送創立六十周年記念美術展では、練上花紋の大皿を出品して頂いた。

平成十六年に出版された「土に挑む 人間国宝伊藤赤水の世界」で、

「つくる側から言わせてもらおうと、

形をつくるのも窯をたくのも難しい。

私にとってはすべてが難しいんです」

と語っている。親しくして頂いている伊藤赤水の気持ちがぴったしの言なので掲載させて頂いた。

アメリカ・ニューヨークでの作品展の計画もあり、是非新潟・佐渡から世界へと更なる飛躍を切望する。

### (3) ビジターの紹介

・渡邊 肇君（宇都宮 RC）

### (4) 退会ご挨拶

・日本銀行新潟支店長 千田 英継君

・東日本電信電話(株)理事新潟支店長 村松敦君

### (5) 委員会報告

・玉親睦委員長より6月23日ゴルフコンペご案内と  
6月28日納会例会ご案内

### (6) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(織戸 潔委員長)

柴田 史郎君

### 青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

樋熊 紀雄君 柴田 史郎君

小林 悟君 山田 隆一君

若槻 良宏君 岡田 茂久君

### (7) ニコニコボックス紹介

・村松敦君 6月17日付で異動することになりました。2年間本当にお世話になりました。新潟ロータリークラブの益々のご発展と皆様のご健勝をお祈りしてニコニコします。有難うございました。

・樋熊 紀雄君 6月13日 Teny 新潟一番の放映に当苑のスタッフが苑の夏祭りのボランティア募集の広告に出演させていただきました。ありがとうございました。

・柴田 史郎君 6月5日 紫雲ゴルフ倶楽部でエースができました。気持ちよく同伴して頂いた樋熊紀雄さん、細野義彦さんに感謝します。

・井原 健至君 誕生日のお祝いありがとうございます。近年は、誕生日も何となく過ぎていく日ですが、今回は、家内の目につくようにテーブルの上にお祝いのワインを置いています。反応はいいかに？

・吉弘 賢司君 先回の例会で退会のご挨拶をさせていただきました。皆様とお別れすることは涙々ですが、温かい激励のお言葉を沢山いただいたことにニコニコです。新潟ロータリークラブの益々のご盛会、ご発展をお祈りいたします。大変有難うございました。

### (8) 幹事報告(吉田 和弘幹事)

・6月18日の地区リーダーシップ会議にご参加の方は名札をお持ち願います。

### (9) 卓話「新潟明訓高等学校

#### インターアクトクラブ活動報告」

新潟明訓高校インターアクトクラブ顧問 斎藤 圭太先生

(10) 6月14日例会の出席率 71.43%

会員数98名(出席免除会員10名)

出席者65名(出席免除会員3名を含む)

(2週間前メーク後 85.42%)

6月28日の例会予定

納会例会 17時30分受付 18時開会

於 イタリア軒

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>